日本放射光学会会員のみなさまへ

この度の東日本大震災により被害を受けられた方々には衷心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災では空前の規模の地震と津波が押し寄せ、1ヶ月が経過してもなお元の研究活動や生活に戻れない方々も多くおられます。さらに追い打ちをかけるように、福島第一原発の事故によって大幅な電力削減や放射能汚染の影響が出ており、現状は大変困難な状況にあります。

特に、KEK では地震によりライナックが破損するなど大きな被害を受けており、KEK-PF についてはこの夏の運転が中止される、という非常事態になりました。全国の放射光研究者はこの事態を深く憂慮しており、一日も早い復旧を心から望んでおります。日本放射光学会として、4 月 6 日に KEK 鈴木厚人機構長に要望書を提出して全面的な支援をお願いして参りました。また文部科学省にも要望書を提出する予定でおります。

放射光は今や日本の国力、国際競争力を支える大きな柱となっております。我々放射光科学に携わる研究者にとって、KEK-PF は放射光のメッカであり、現在も多くの優れた研究成果を生み出す「知の泉」として際だった存在感を示しております。西の雄である SPring-8 が稼働 14 年目を迎えてもなお、東の雄 KEK-PF の重要性は少しも揺らぐことはなく、特に東日本の利用者にとって大いに頼りとするところであります。しかし、この度の大震災の影響で電力の大幅削減、さらには復興支援のために予算削減、という事態に陥ることを我々は大変懸念しております。KEK-PF は大学共同利用機関としての役割を持っており、長期に亘る KEK-PF のシャットダウンは、日本の迅速な震災復興に向けてその土台としての基礎科学技術の進歩や、産業界の基盤技術の発展を支える人材育成にとっても甚大な影響を与えることが強く懸念されます。

一方、今回の PF の運転中止に対して、国内および国外の放射光施設から緊急的なビームタイムの提供が PF に寄せられていると聞いており、放射光研究者としては大変ありがたい申し出であると感謝しております。また、アジアオセアニア放射光フォーラム AOFSRR の会長である韓国 Pohang Light Source の Moonhor Ree 施設長が音頭を取ってアジア各地から文部科学省量子放射線研究推進室長あてに PF 支援メッセージを送って頂きました。1 年半前の行政刷新会議による事業仕分けで SPring-8 予算の 1/3-1/2 カットという結論が下されたことに強く抗議して、世界各国 49 名の支援手紙が送られて来ました。放射光学会として要望書とともにその手紙を文部科学省大臣に提出いたしましたが、このような国際的支援の輪が広がっていくことは極めて心強く、今後もこのネットワークを強化していきたいと考えております。

現状では東日本の災害復旧、原発事故処理が最大の急務であることは十分承知しておりますが、国力の源である放射光の火を大きく燃やし続け、21 世紀の科学・技術、そして産業を支えていくことは長期的に見て極めて重要だと考えております。引き続きみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本放射光学会会長
尾嶋正治